接種向け各社対応急ぐ

新型コロナワクチン 副反応見越し休暇導入も

64歳以下への新型コロナウイルスワクチンの接種が本格化するのを前に、物流各社が対応を急いでいる。接種当日にはその時間を勤務扱いにしたり、翌日以降に副反応が出た場合は特別休暇を取得可能にする企業も出てきた。一方、接種後の副反応を懸念する声もあり、人手不足が続くドライバーでは、接種と勤務の両立をどう進めるかで頭を悩ませている（＝関連記事2面）。（特別取材班）

新型コロナワクチン接種を加速するため、政府は経済界に働く人が接種しやすい環境整備を求めている。本紙が複数の物流企業に対応を聞いたところ、従業員本人の場合、接種当日では2パターンの対応が聞かれた。

就業免除のパターンも多く

1つ目が勤務時間内に接種を行う場合、移動や接種時間を勤務扱いとし、就業を免除するパターンで、丸和運輸機関、三井倉庫ホールディングスなどが導入。エスラインギフは5月12日から運用を開始した。

2つ目は、就業規則で定めている特別休暇を活用するパターンで、こちらは渋沢倉庫、ダイワコーポレーションなどが実施する。どちらのパターンもパート、契約社員を含めた全従業員を対象とするほか、付き添いが必要な家族が接種する場合も適用する企業が多い。2回目の接種でも同様の対応を取る方針だ。

接種翌日以降に副反応が出た従業員には、特別休暇の取得で対応するケースが多いようだ。三菱倉庫のように、本来消滅する年次有給休暇を、病気、介護など決められた目的のために積み立てておく「積立休暇」を活用するケースもあった。

一方、新型コロナワクチン接種の対応では、特別休暇などの措置を設けず、有休で対応していく方針の企業も。情報不足から判断に迷い、「まずは他社の動向を見てから対応を決める」とする意見も複数聞かれた。

ドライバー対策で頭悩ます

また、新型コロナワクチンの接種では副反応が出た場合の対応に悩む企業も多かった。特に人手不足が深刻なドライバーは簡単に交代要員を見つけることができず、「ドライバーは週2日も休めない中、限られた人員で対応するのは難しい」と中堅特積みのトップ。別の特積みトップは、発熱、体の痛みなどが起こる可能性を踏まえた上で、「副反応が運行中の安全に支障を来すことも考えられる。国、トラック協会はもっと情報提供してほしい」とした。

実際、接種後のドライバーに関しては、検温や体調変化に注意して慎重に対応するしかないのが現状。都内の中堅運送企業は「ワクチン接種は年齢の高い管理職から行っていくだろう。混乱が起きないように計画的に進めるが、ドライバーが副反応で急きょ運転できなくなった場合は、営業所長などが代わることも考えられる」。

ドライバーのワクチン接種と業務の両立について、「医師や看護師に確認するとともに、接種後は極力業務に就かないでほしい」と国土交通省。副反応に関しては厚生労働省のホームページで、ファイザー製ワクチンの詳細が記載されており、今後掲載されるモデルナ製も併せ、「参考にしてほしい」としている。

物流各社の主な対応（従業員本人の場合）

社名	接種当日	接種後（副反応が出た場合）
SBSホールディングス	勤務時間内での接種を認める	接種日翌日を特別休暇扱い
エスラインギフ	就業時間内に接種する場合、その時間は出勤扱い	特別休暇の取得が可能
山九	特別休暇を付与	積立休暇の取得が可能
渋沢倉庫	特別休暇の扱い	—
西濃運輸	制度新設の最終調整段階	—
センコーグループホールディングス	制度化に向けて検討中	—
ダイワコーポレーション	特別休暇で対応	特別休暇の取得が可能
日本梱包運輸倉庫	特別有給休暇を導入する	特別有給休暇を導入する
丸和運輸機関	就労時間内の接種の場合、接種会場への移動や接種時間は勤務扱い	検討中
三井倉庫ホールディングス	就業時間に接種する場合、その時間は出勤扱い	特別休暇の取得が可能
三菱倉庫	就業中に接種する場合、出勤扱いとし、就業を免除	接種翌日は就業を免除、翌々日以降は積立休暇などを取得可能

「接種後、休む判断を」

大阪医科薬科大学病院 浮村 聡 感染対策室長

感染症に詳しい大阪医科薬科大学病院感染対策室の浮村聡室長は、「新型コロナウイルスワクチンの接種後から翌日は副反応が出やすく、企業は体力を使うドライバーに対して休む判断を」と呼び掛ける。

副反応では発熱、腕が上がらない、けん怠感などが接種後翌日にかけて起こる。傾向として、1回目より2回目の接種の方が副反応の頻度は高い。浮村室長によると、発熱は1回目では30～50人に1人の割合だが、2回目は3～5人に1人と副反応が出やすい。腕を上げると痛むのは全体の7～8割に上るという。

浮村室長は「副反応を翌日以降も示すケースがある。企業は安全面を考慮しながら、柔軟に対応する必要がある」と話す。発熱には、アセトアミノフェンといった市販薬の解熱剤が有効だが、品薄状態が続いている。「事前にかかりつけ医などで解熱剤を処方し準備も」とアドバイスする。

新型コロナのワクチンは2回の接種で99・9％の確率で中和抗体が体内につくられる。浮村室長は「極めて優秀なワクチンで革命級と言っても過言ではない」と分析している。（遠藤 仁志）